

議会運営委員会視察報告書

(1日目・彦根市議会)

立志会
堀口陽一

1. テーマ「議会改革の取組みについて」

- 視察対応プロジェクトチームが編成され、司会進行と説明・質問対応は議員自らが行き、資料とパワーポイントを利用して熱意のある点は本市市議会と同様、議員自らが行う良さと利点を感じた。
- 先進的な取組みとしては、市民アンケートで3000世帯を無作為に抽出して実施した点（回答率は35.4%）
- 改革の取組みでは、広報広聴の3組織を立ち上げ
 - ①議場解放促進委員会 8人
 - ②広報委員会 8人
 - ③広聴委員会 8人議長副議長、各正副委員長で広報広聴調整会議を行いそれぞれの組織が役割分担を決め、機能する仕組み作りが構築されていた。
- 子ども議会も実施され、議会傍聴に対しても小学生・中学生・高校生は授業の一環として実施しているところは、教育委員会と連携が取れていると強く感じた。
- 様々な先進的な取組みをされていましたが、根底にあるのは議員の活動が、市民に伝わるのが目的だと議会全体で統一認識として、行動しているところは大変参考になりました。

(2日目・加賀市議会)

1. テーマ「議会改革の取組みについて」。

- 司会進行と説明は議会事務局職員が対応したため、彦根市議会に比べると温度差を感じたのは、参加者全員の見解でしたが、質問対応は議員が入ってするなど工夫しているところは感じとれました。
- 議会改革の取組みの中では、平成23年4月1日から議会基本条例を施行し、そのコンセプトとしては五つあり
 - ①開かれた議会 ②市民が参加する議会 ③政策提案する議会
 - ④監視する議会 ⑤審議する議会として本市より一歩進んだ改革だと感じました。
- 本会議場において、能楽の上演や九谷焼の展示など市民に開かれた議会を目指し、出来ることはすべてやろうと言う気概を感じました。
- 多くの点で本市と同様、知恵を絞って取り組まれているが本市より特に先進的な点は、議会だよりモニター員を推薦や一般公募して募り、より市民に判りやすい紙面にしたこと。また子ども議会を実施しているだけに留まらず、小学生・中学生・高校生議会に女性議会を開催するなど、常に新しい取組みに挑戦しているところが、評価されていると感じました。

議会運営委員会視察（令和元年 11 月 20 日～21 日） 報告書

公明党 村岡 均

11/20（水）彦根市議会（滋賀県）の「議会改革の取組みについて」

初めに安澤副議長より、ごあいさつを頂き、視察プロジェクトチーム（副議長を含む）3名の議員の方より、「議会報告会」「市民アンケート」「子ども議会」「議場コンサート」等を中心に説明を頂いた。議会報告会については、数多く活発にされており、特に印象に残ったのは、ワールドカフェ方式による議会報告会（意見交換会）を「カタリバ」という名前をつけている事である。非常に親しみやすく感じる。「カタリバ」のPRのために名刺サイズのチラシやのぼり旗を作成しているとの事である。子ども議会の開催については、行政、教育委員会、議会の三者で共催ということで、子ども議員を選出し、質問事項作成のための事前研修等、教育委員会や行政の理解、協力が高い事に驚いた。市議会に関する市民アンケートの実施では、「議会や議員の活動が見えない」「市民との対話の場が少ない」等の主な意見があり、アンケートによって「市民の皆様が議会をどのように感じているのか」知ることができたとの話があった。

ひこね市議会だよりを見せて頂いたが、平成29年度からオールカラー化となっており、個人質問に顔写真があり、本市も参考にしたいと思った。また、滋賀大学経済学部と彦根市議会との連携及び協力に関する協定を締結し、地方自治及び地域社会の活性化と地域における人材育成に寄与することを目的にしているとの事である。

11/21（木）加賀市議会（石川県）の「議会改革の取組みについて」

初めに田中議長より、ごあいさつを頂き、「議会改革を進めているが、市民の手ごたえが分かりにくい」と言われていたことが印象に残った。次に、議会事務局 長谷主査様より“市民から信頼される議会を目指して”の議会改革の取組みについて説明を頂いた。「議会だよりモニターの実施」「土日議会の開催」「子ども議会」「女性議会」「議会アンケート」「議会モニター制度」「議会報告会」「金沢大学法科大学院との連携」等、議会改革度調査（2018）5位の素晴らしい取組みについて、大変勉強になった。議会アンケート結果においても、約60%が議会に関心があり、70%以上が議会だよりを読んでおり、市民が求めているものは「意見交換会」「議会報告会」との事である。

二日間の視察を通じて、本市が取り組んでいない項目が多くあり、大いに勉強になった。まずは、議会アンケートに取組み、泉大津市民が本議会をどのように思っているのか知りたい。

2019年度 議会運営委員会 視察報告書

委員 田立恵子（会派；日本共産党）

11月20日（水） 滋賀県彦根市議会

11月21日（木） 石川県加賀市議会

【所見】

1、市民アンケートの実施

両市議会とも、議会として「市民アンケート」を実施し、市民の声を直接聞き取り、議会改革に活かしている。その姿勢に、何よりも感銘を受けた。

アンケートで出された「主な意見」として「市議会に関心がない」「市民との対話がない」（彦根市議会 H24年1月アンケート）などであり、回答率35.4%という数字にも、市民の意識が表れていると言って良いと思われる。そこを「議会改革」の出発点としていることに学びたいと思う。

そうして積み上げた試み、実践の結果、加賀市議会では、H25年度、H28年度の2回の「アンケート」の結果、議会に対する関心が「ある」「少しある」の合計で54.8%から64.6%へ、議会の活動評価が、「大いに評価」「ある程度の評価」の合計で、28.9%から41.8%へ、それぞれ注目すべき変化となっている。

本市議会においても「市民アンケート」の第1回目を実施し、「市民に開かれた議会」への新たな一歩を踏み出したいと感じた。

2、議会報告会の開催のありかたと議会としての政策提言

両市議会とも、「議会報告会」という名称で開催しているが、その内容は議会側からの一方的な「報告」にとどめることなく、市民との直接対話、意見交換を重視していると感じた。

常任委員会ごとに各種団体を対象に開催（彦根）、ワークショップ形式（彦根）、原則固定の3班体制で2年間に21地区で開催（加賀）など、報告会の開催方法にも工夫、改善が重ねられているが、最も重要だと感じたのは、報告会で出された市民の意見・提案を、議会として受け止め、検討し行政への政策提言までつなげていることである。「市民からの意見・提案は各所管委員会に振り分け、調査・検討。概ね3ヶ月で集約、公開」（加賀）。彦根市議会でも、報告会での意見のその後の取り扱いについて質問したところ、「各所管の常任委員会で調査・検討している」との答えが「当然です」というニュアンスで返されたことが印象に残っている。実際に、数多くの「政策提言」につながっている具体例も紹介された。

本市議会でも、議会基本条例制定以降、団体からの要請に応えた「意見交換会」の開催を重ねてきたが、「その場限りの意見交換」に終わっている場合がほとんどではなかったかと思う。議員の政策的な立ち位置、主張は様々で、合意形成は困難であるが、一致点を見出す努力を惜しまず、議論を重ねることが2元代表制の一翼としての議会の役割であり、そのことを通じて政策立案の力を培うことができるのではないだろうか。

3、「議会広報」の紙面刷新

両議会とも、議会広報紙はフルカラー（一部は2色刷り）、ページ数も20ページ（彦根）、16ページ（加賀）と、本市の広報に比べて相当多い。レイアウト、写真の多用で目をひく、見やすいものになっている。経費の問題もあるが、「読んでもらえる」紙面であってこそ、発行する意義がある。そのために、紙面のゆとり、カラー印刷による写真の効果的な活用は不可欠だと痛感した。

一般質問のタイトルを「Q」「A」で打ち出す（彦根）、議場でのやり取りだけでなく「議員の一言」欄を設ける（加賀）なども、読者の興味・関心を惹くために有効ではないかと思う。

広報紙面の改善に市民の声を活かす、モニター制度（加賀）にも学び、「読んでもらえる」広報紙をつくるために、できるところから改善をしていきたいと考えた。

議会運営委員会視察所感

市民みらいネット：野田悦子

令和元年11月20日(水)～21日(木)に、議会運営委員会（以後議運という）の視察として、滋賀県彦根市、石川県加賀市へ伺いました。私はこれまで、本市の方針で一期一貫して議会改革検討協議会（以後議会改革という）が設置され進めている中に身を置き、議会改革の先進市への視察にも行かせていただけてきました。今回は二度目の議運の立場での参加となりました。

議会改革は時間をかけてじっくりと何度も協議を図り進めていく検討協議会だけではなく、議会全体で取り組んでいくことが重要と考えておりました。実際、多くの先輩諸氏の議員の皆さまが議会基本条例の制定に取り組む中で、十分に同様の考えを熟成されてきたものがあって、ここまでの議会が形成されたと感じてもおります。だからこそ、今期より議運の中に議会だより編集だけでない、広報広聴委員会も設置され、私では力不足ではありますが精一杯取り組んでいく覚悟をしておりました。本市議会で取り組めるのは何か、どのような議会だより、開かれた議会作りが望ましいのかという視点で臨みました。

所 感

《議会改革への取り組み》二市議会共通課題

1 日目：滋賀県彦根市議会

途中、JRの遅れなどもありましたが、無事彦根市へ到着いたしました。駅前で昼食中に窓から見える元商業施設、といっても現在も一部営業中のビルに彦根市役所が入っており、職員の方が一階まで迎えに来て下さっていました。現在、市役所本庁舎は耐震化工事により、今回伺った「彦根駅西口仮庁舎」（アル・プラザ彦根3階と4階）のほか、「本庁舎別館」や「中央町仮庁舎」に分かれて業務を行っているそうで、私などはパーテーションで仕切られた4階はご案内がないと議会事務局へたどり着けないように感じました。

案内いただいた部屋では、議会から安澤 勝副議長、和田 一繁議員、小川 吉則議員の三名が対応くださいました。

安澤副議長のご挨拶、和田議員が進行と説明、小川議員がプロジェクターのパソコン操作と息の合った様子は、始まってすぐの視察対応プロジェクトチームがあるのだとわかりました。

プロジェクターの表紙の画面は「議会改革の取り組み、・議会報告会・子ども議会・議場コンサート」で始まっていましたが、最初に紹介された視察対応プロジェクトチームや市民アンケート、中学生・高校生傍聴、そして議会だよりと多くの取り組みをされていることがわかりました。

- 本市でも取り組み始めていたり、取り組みたい課題として上がっていたりする内容でした。
- ・視察対応プロジェクトチーム：視察の受け入れをH28年10月より議会事務局対応から正副議長経験者を幹事として設置。現在は議会改革特別委員会のメンバーで対応。
 - ・市民アンケート：H24年1月に1月10日から31日の期間で無作為の3,000世帯に対し実施。（回答率35.4%）議会の存在が市民とは遠いのだと今後の課題が見えた。

- ・議会報告会：様々な模索
 - ・一回に3日4会場での開催として実行するも徐々に参加人数が減少する。
 - －H27年度からの取り組み－
 - ・報告会から、意見交換会（ワークショップ形式）に重点を移し、各種団体を対象とする。
 - イベント実行委員会構成団体との『おんな城主直虎を活かした集客戦略について』をテーマに開催。
 - 市長への政策提言をまとめる。（広聴委員会主催）
 - H28年2月各常任委員会主催で3回開催。
 - －H28年度からの新たな取り組み－
 - ・選挙年齢の18歳引き下げを受けて市内学生を対象にワークショップ形式で開催。
 - ・H28年8月 市内3大学の学生を対象
 - ・H29年1月 高校新聞部員対象
 - 各紙長官に掲載される
 - ・各種団体では一般市民の声が聞けていないとの課題が出てきた。
 - H29年2月一般の市民を対象に、第1部報告、第2部意見交換の二部構成とする
 - ・更に多くの意見を取り入れる方向へ変更
 - H29年11月、H30年7月、H31年2月とワールドカフェ方式で開催
 - 議会報告会の名称を「カタリバ」とし名刺サイズのチラシを作成
 - ・大型商業施設でオープン参加型を「ひこねの防災について考える」とのテーマで開催
- ※ 意見交換でまとめられた意見や視察から、市長への政策提言としている点が、特に素晴らしいと思えました。様々な意見、考え方がある議員の中でも、共通して理解の得られる点だけでも提言とし、市長に出し対応への報告を求めていくことで、参加された団体の方もより納得されるのではないかと思います。本市議会の意見交換会はお聞きする、その場で各議員が自身の考えや、市の現状をお伝えするだけになっており、やった後にどちらにもフラストレーションを引き起こしている気がするのはいり過ぎでしょうか。
 - ※今後の意見交換会の進め方、終結の仕方として、次に目指していこうとしている、こちらから対象を決めてのアウトリーチ型で進めていく時の参考にしたいと思います。
- ・議場開放（議場コンサート・子ども議会）
 - ・H20年に議員有志によりスタート
 - ・H25年4月会議規則に議会開放推進委員会の設置を規定。
 - ・H27年5月議会開放基本条例へ
- ・子ども議会：
 - ・夏休み中に選出された子ども議員が対象。（選出は教育委員会一任）
 - 初日：市役所の説明、市議会の仕組みの説明⇒子どもたちの視点で質問内容を決定、質問作成⇒企画課と議会事務局協力のもと執行部への問い合わせ
 - 1週間前：議長選出、議席決定（くじ）を本番さながらに決定⇒議会ツアー
 - ⇒議場入場（議員によるデモンストレーションでイメージ）⇒リハーサルに挑む
 - 本番当日（11月）：集合写真撮影、開会、閉会もあり、こども議会開催（5分/人）

- ・議場コンサート：年2回6月と12月に開会後の午後一時から30分間で開催
 - ・出演者も初回は公募、選出から現在は各公民館持ち回りで依頼（課題は費用）
- ・中学生・高校生傍聴（人選は教育委員会一任）
 - 市内7中学校（生徒会役員が選ばれることが多い）
 - 近江高校（H28開催）

授業の一環で膨張として行われた

※議場開放基本条例と条例化している点取り組みへの意識の高さなのかと感じました。議場コンサートは議会開催前に行われている点など、傍聴につながるのではと今後の課題として受け止めました。

子ども議会は時間と議員参加の労力を思うと、ここまでするから本格的な子ども議会が運営できるのだと思います。本市でも出来るのか泉大津モデルを考えていかなければならないと感じました。

- ・議会だより
 - ・H24年先進市視察
 - ・1ページの配分を3人から2人へ
 - ・余白を多く、個人質問に顔写真添付
 - ・巻頭特集ページ
 - ・表紙、裏表紙をカラーに（H27年度から）
 - ・H29年再度先進市視察
 - ・オールカラー化
 - ・高校生、大学生に色遣いや表現についての意見を求め検討

※広報委員会で分析し、今も常に模索中であるとのこと。本市も少しずつ変化を遂げ、読んでもらえる、読みたい議会だよりを目指したいと思います。

誌面の構成や記事などまだまだこれから変えられるところが多くあり、このタイミングで議運の委員全員で視察に行けたことが、何より進化のスピードアップにつながると信じて行動したいです。

2日目：石川県加賀市議会

市内に温泉地を多数有し、古くから観光の街として栄えてきた加賀市ですが、バブル崩壊、リーマンショックなどを経て、必ずしも順風満帆とは言えなかったということが、今回の視察の申し入れに対し、議会として市内温泉地での宿泊が条件とされたことからもうかがい知れます。しかし、市も議会も総がかりで街づくり、町おこし、その土地でのアピールポイントをしっかり前に出して取り組んでおられる姿勢には見習うものがありました。

加賀市の説明でも「一時400万人/年だった観光客は、近年半分の200万人/年になっている。積雪量も多い時は1.8mにもなるが、温暖化の影響か10cmから20cm程度になってしまっている。」とありました。観光地は雪の季節にはしっかり降って雪景色…というのも売りなのだ改めて納得。（積雪が少なくなると10~20cmというのは大阪人としては多いのですが。）視察対応はご挨拶下さった議長を始め活性化特別委員の2名と事務局の次長、主査の計5名が当たって下さいました。

議会改革の取り組み～市民から信頼される議会を目指して～

議会基本条例は平成23年4月1日施行

目指すべき議会の5つの姿

- ・開かれた議会
- ・市民が参加する議会
- ・政策提案する議会
- ・監視する議会
- ・審議する議会

} 二元代表制として監視するのですが、はっきりと明言している。審議は何をどのように？と興味が。

以上に挙げられた目標に向かって同時進行で取り組まれた様子がわかる。

わかりやすく以下にまとめた。

平成 23年		政務活動費全面公開
平成 23年		小学生の議会傍聴
平成 23年		女性議会
平成 23年		議会報告会
平成 23年	6月	インターネット録画配信
平成 23年	12月	初の日曜議会開催(以後、H27年6月土日議会開催)
平成 24年		小学生議会
平成 25年		第一回市民アンケート実施(回答率 28.3%)
平成 26年		中学生議会
平成 27年		フェイスブック開始
平成 27年	3月	金沢大学法科大学院と連携
平成 27年	10月	タブレット端末導入
平成 27年	12月	本会議ライブ中継
平成 28年	1月	委員会等ライブ・録画中継
平成 28年		議会だより4頁増(8→12頁)フルカラー印刷
平成 28年		議会だよりモニター員制度(改善提案)
平成 28年		第二回市民アンケート実施(回答率 34.3%)
平成 29年		議会だより4頁増(12→16頁)フルカラー印刷
平成 29年		高校生議会
平成 29年		高校生と意見交換会
平成 30年		議会おでかけ教室(小・中学校)
平成 31年		議会モニター員制度
平成 31年		傍聴席に大型ディスプレイ設置

◎上記取り組みの中で本市が今後の取り組みに、特に参考になると感じた点を次に挙げる

・議会だよりの編集

- ・議会活性化特別委員会、委員7名（会派幹事長、1・2期議員によって構成）
同 広報部会、部員5名（1・2期議員）

※議会活性化特別委員会で議会改革、広報・広聴等を担うとし、「古い方の意見ではなく新しい若い方の意見を多く取り入れることとした。会派幹事長にはそれぞれの会派の橋渡し役、調整役をお願いしている。」とのことで、より市民に近い感覚で改革に取り組んでおられる決意の表れだと思いました。

- ・H28年度にフルカラー化し、増ページを機に、誌面をモニター員制度実施
・モニター員制度

10人程度（一般公募、各地区及び女性団体から推薦）

1年交代（再任不可）

年4回の議会だよりを読んで意見・提案記入用紙を提出

年度末に正副議長、広報部会と意見交換会

⇒ H29年度にさらに増ページしより見やすく読みやすく、わかりやすくに努める

- ・特集記事を掲載 情報源としての役割も担うことで読んでもらえる議会だよりに

・主な改善点

- ・全ページカラー刷り ・文字を大きく、間隔をあける ・写真イラストの多用
- ・議会傍聴を呼び掛ける記事掲載 ・フェイスブックのQRコード掲載
- ・一般質問に「議員のひとこと」を追加 ・質問の見出しを口語体に
- ・視察の目的や視察先でのQ&Aの掲載 など

※上記の中から、すぐに取り入れられることや、時間のかかること、お金のかかる事など一概には言えないのですが、出来ることから、少しずつでも、確実に、必ず変えていきたいと思いました。（お聞きしながら、これはすぐにでも！予算が取ればなあ…と、思いを馳せながら聞いておりました。）

・市民が参加する議会へ

- ・日曜議会（H23年6月）、土日議会（H27年6月）二日連続
- ・女性議会（女性団体から選ばれた方を議員に、市議会議員が答弁）
- ・小・中・高校生議会（H24年・26年・29年とそれぞれ開催）
- ・議会おでかけ教室（H30年度、小・中学校）
- ・議会モニター制度（H31年度～）

※日曜議会などは議会、議員だけの問題ではないので一足飛びには実現しないのかもしれませんが、夜間議会などもどのようにすれば可能か考えていきたい取り組みです。

小・中学議会を経て、高校生議会を開催し、高校生との意見交換会へとつながっているのではと感じました。また女性議会はなぜ女性議会なのかとも思いましたが、未だ自治会や老人会を見ても、活動をしているのは女性が多いのに表に出てくるのは男性がほとんどなので、とても興味を覚えました。

議会モニターは議会だよりのモニターから議会そのままを見てもらう取り組みとして大いに参考になりました。いずれ、そう遠くない時点でモニター員制度は取り入れられればと思います。

・議会おでかけ教室（H30年度から）

※本市の中学校職業講和的なものか。ただ議会主導だからいつでもできる。職業講和では呼んでもらえないと、話す機会すら得られないので、教育委員会と相談ですぐに取り掛かれるのではとも思います。（教科の時間数が大変な中、難しいのでしょうか。）

・政策提案する議会へ

- ・H24年 市民主役条例
- ・H25年 ポイ捨て等防止条例
- ・H27年 地域医療を守る条例
- ・H29年 乾杯条例
- ・H29年 災害対策基本条例
- ・H29年 いじめから子どもを守る条例

※その他にも、執行部への提言も多数行っており、議会が一つになって必要な条例提案をしていく。そのためには議員の質と意識の向上が不可欠ですが、議会事務局の力も大きいと考えています。政策立案できる議会へ、道のりは遠いのでしょうか。

・議場内ディスプレイの設置（令和元年6月）

議場内二箇所のモニターは見送られたものの傍聴席とケーブルテレビ（ネット共通）には持ち込み資料の画像を表示

※インターネット中継を見ている人が議場で見ている資料やモニターの情報を共有して見れることは必要だと以前より考えています。操作を誰がするのか、質問をしながら出来るのか、会派の者が手伝えるように取り決めるのか。費用対効果で検討していきたいと思っています。

加賀市も取り組んでいる間に議会改革度調査の順位が上がっていった。上がってくると、次の改革の方向性や、取り組むことが見えてくる。だからまた順位が上がる。本市もこれを目指したいです。

とても多くの刺激と、目指すべき先が見えてきた気がする二日間でした。
足を止めず、頭を柔軟に、ひとつずつ取り組んでいきたいと思っています。

以上

おつ 中谷 昭

議会運営委員会の行政視察として、11月20日に彦根市の議会運営の取り組み、21日は加賀市の議会運営の取り組みについて視察を行った。彦根市においては、平成29年度から彦根市の議会改革の取り組みなどの視察対応については、本市と同様に議員が対応しているとの事でありました。今回は、和田一繁議員、小川吉則議員、安澤勝議員より彦根市議会の議会改革の取り組みについて説明がありました。

彦根市議会においては、議会改革の取り組みについては議員8人で構成する議会改革特別委員会を設置し議会改革について議論・検討しているとの事でありました。本市では、議会改革について議会運営委員会が議会改革検討協議会に委託している様な構成になっており、私は、一つの課題について二度議論することもあるように感じてなりません。彦根市議会のように特別委員会を設置し、議会改革についての議論・検討行う事を検討しても良いのではないかと思った。この事については、検討協議会を立ち上げる時に検討したと記憶しているが、運営していく中で今一度、議論・検討しても良いのではないかと思った。議会改革で決定された事業の推進については、広報公聴調整会議の中で、議場開放促進員会（市民に開かれた、わかりやすい議

会の実現に向けて、市民が議場を身近なものと感じ、より多く来場して頂ける行事を検討する委員会)、広報委員会(議会の情報を発信、より多くの市民に議会を知ってもらうための広報を行う委員会)、広聴委員会(議会活動の情報を発信・報告し、来場等をきっかけとして広く広聴を行う委員会)の役割分担をした3つ組織で行っているとの事でした。議会改革で検討し決定された事業の推進については、本市においても、彦根市の様に役割分担した委員会を立ち上げるなど参考にして行くべきだと思った。それ以外にも「議会に関する市民アンケート」の実施やテーマを絞ったオープン体験参加型の議会報告会などは参考にすべきだと感じた。また、子ども議会の取り組みについても、子ども議員選出書の交付や子供たちの質問作成に対する取り組みや子ども議長の選出方法など、議員に選ばれた子供たちの意識向上への取り組みは、将来、子どもたちが大人になった時、市政に関心を持ってくれるのではないかと感じた。教育委員会の協力が必要と思うが、彦根市の取り組みを参考にし、本市においても実施すべきだと思った。また、市議会だよりについても、高校生や大学生の意見を聞き、色使いや表現を検討し、オールカラー化を平成29年度から実施しているとの事でした。これらの事についても参考にしながら

ら、市民の方に分かりやすい議会の改革に取り組まなければと考えた。

次に、21日の加賀市の議会改革の取り組みについては、奥村外与彦議会事務局次長と長谷博史議会事務局主査から説明がありました。

加賀市においては、平成23年4月1日に議会基本条例が施行されたとの事であります。そして、石川県内の市議会では、初めての政務活動費の全面公開や小学生の議会傍聴（10小学校 223人）、平成27年8月からフェイスブック開始や本会議などのインターネットライブ中継の実施を行ったとの事であります。そして、加賀市においても彦根市と同様に平成28年度より議会だよりを、約210万円かけてオールカラー化しているとの事であります。このオールカラー化については、議会だよりモニター制度の中で、一般公募などした概ね10人のモニター員からの改善の提案があり実施したとの事でありました。議会だよりについては、今回、視察させていただいた彦根市、加賀市の両市において費用は掛かるが、市民に分かりやすい議会という観点からオールカラー化に踏み切っているとの事から、本市においても検討し実施する必要があるのではと思った。また、今年度より、市内各地区、女性団体、商工会議所、青年会議所からの推薦より

19名の議会モニター員を任命し、議会運営全般について、アンケートで意見を聴取するとの事でありました。このモニター制度については、市民参加型の議会という観点からも非常に有意義ではないかと感じた。本市においても導入を検討するべきではないかと思う。また、金沢大学法科大学院との取り組みで、大学院生とのインターンシップによる意見交換の中で、いじめ防止条例の提案など様々な議論がなされているとの事で、本市においても桃山学院大学などの学生との意見交換は、新たな目線による観点が図れるのではと思った。最後に、加賀市民1500名を対象に議会アンケートを平成25年と28年の二回実施しており、そのアンケート結果の説明がありました。この4年の間に、議会に対する関心度について、関心あると少しあるが約10%アップし、議会の活動評価については、評価するが約13%アップしたとのことでありました。議会自らが市民の方に分かりやすい議会運営を図ることにより市民の方が、議会に対し理解を示して貰えるのだと興味深かった。これからも市民参加の議会改革を推し進めることが重要ではないかと、今回の視察において改めて感じた。

視察日程 2019年11月20日（水）～11月21日（木）

視察先 滋賀県彦根市
石川県加賀市

<所見>

初日、大阪駅から在来線を乗り継ぎ彦根市議会に議会改革の取り組みについて視察させて頂いた。視察全体の行程については、委員長報告に委ねることとし、ここでは参加者として所見を述べさせていただき報告とします。

まず、彦根市議会副議長から歓迎のあいさつを受けた後に視察対応プロジェクトチームを構成する3人の議員から議会改革取り組みの動機と実績について詳しくお話し頂いた。議会報告会は、各常任委員会で設定したテーマにもとづき議会報告を年4回実施しているということであった。工夫していることは、議会報告ごとに事前にテーマを設定し、後のちフォローアップし、形に残していくために各委員会に持ち帰り政策提言に結び付けていくということであった。また、平成20年から議員有志からの提言を受け「議会開放プロジェクトチーム」を設置し、議場コンサートや子ども議会を開催しているという。特に子ども議会については、市内小学校17校から選出して頂き、市議会の仕組み、質問書の作成等議員から事前の研修を受けた後、議員のデモンストレーションやリハーサルまで行うという本格的なものであることに驚かされた。

さらに平成24年1月に住民基本台帳から無作為に抽出した3,000世帯を対象に市民アンケートを実施し、回答率は35.4%であったが「市議会に関心がない」「市民との対話の場がない」「議員の活動内容がわからない」「議員の資質の向上」等市民の意識を知るうえで議会改革の取り組みに生かしてきたと言うことであった。当市議会でもぜひ取り組んでいきたい課題でもある。また、当市議会でも現在検討頂いている一般質問の議員の持ち時間が、議員一人30分と言うことであった。当然本市議会のように会派割り当て時間は設けられていないと言うことであった。さらに事前の答弁調整等もないということで、議員の一般質問力が試されるぶっつけ本番の緊張感のあるものとの事であった。

二日目は、加賀市議会を視察させて頂いた。「政策提案する議会へ」をキャッチフレーズに早大マニフェスト研究会の議会改革ランキング全国1,447自治体中5位にランクされている。評価のポイントは、『情報共有』『住民参加』『機能強化』の3項目で全国1位と言う。

加賀市議会は、議会報告会をはじめ日曜議会の開催、女性議会、小学生議会、中学生議会、高校生議会、高校生との意見交換会、議会だよりモニター員制度、議会おでかけ教室等々、議会改革の取り組みとして、市民に開かれた、～市民から信頼される議会を目指して～幅広く活動されている議会の取り組み姿勢が議会改革全国ランキング上位に位置づけられる根拠であると実感させて頂いた。

特に市民に見てもらえる、読んでもらえるホームページ作りや議会だよりの編集に力を入れていることであり、議会だよりの改善については、議会活性化特別委員会を設け「広報広聴に充実強化」に取り組んできているということであった。議会だよりは、文字を大きくし、写真を多く取り入れフルカラーでページ数を増やすなど見やすく読みやすく工夫したと言う。また、議会だよりモニター制を実施し、一般公募と各地区・女性団体から約10人推薦いただいた上で、年4回発行される議会だよりについての意見や提案を記入用紙に書き入れて頂いて提出して頂くというものであり、本市議会でも取り組める内容、課題ではないかと感じさせて頂いた。また、私の方から全国ランキングを意識した取り組みはされておられるのか？と言う質問もさせて頂いたが、ランキング上位のプレッシャーは市民からもあるが、「特にランキングを意識した取り組みをしているわけではない」との返答に少し安心感を得て帰阪の途についた。

以上

<彦根市議会> 「議会改革の取り組み」について

- ・視察対応プロジェクトチーム（議会の議員でメンバーを組み説明する）

3 常任委員会（各8名ずつ） 議員定数24名

（会派に属さない2名は議会改革特別委員会には入らない）

①市民アンケート調査

- ・市民の関心度に変化があったか？（厳しい意見も中にはあった）
- ・議会の動きを市民に分かって貰う必要がある事が確認できた。
（議会からの市民に向けて情報発信や市民と直接対話などを積極的に行うこととした）

②議会報告会

- ・報告会を進めていくと参加者が少なくなった。要望を聞く場となった。
- ・H27年12月22日にワークショップ形式に変更して開催した。
- ・3 常任委員会別にテーマを決めて報告会を実施した。
- ・選挙年齢が18歳に引き下げを受けて若年齢層の意見の取り組みを図る
H28年8月12日、市内の3大学の学生
H29年1月28日、彦根東高校の新聞部員
（ワークショップ形式で意見交換会）
- ・「カタリバ」ワールドカフェ方式の報告会及び意見交換会
- ・オープン体験型の議会報告会「ひこねの防災について考える」
- ・議会報告会の案内をポケットティッシュにに入れて商業施設などで配布している
市政報告会や意見交換会については、区別せず臨機応変に大きな枠組みで考えている。
ワールドカフェ方式が、議会と市民の垣根が低くなり意見が出やすく有効的である。

③子ども議会（議場開放）

- ・市、議会、教育委員会の3者の共同開催
- ・子ども議員の選出は？（6年生、各学校から選出するが教育委員会に任せている）
- ・子どもが議員として出ることによって、保護者や教員など多くの方が議会に傍聴に来る。
（議会（議場）に多くの方が足を運んで頂ける）
- ・子どもの質問は先生や議員で調整する（学校施設や学習環境の整備について質問する）
- ・教育委員会の協力体制？（毎年継続した事業であるので協力的である）
- ・市長・理事者が答弁する。（改善できる所から実現出来るケースがある）
- ・議会だよりに内容等を掲載する。

④議場コンサート

定例会開催日の午後1時～1時30分迄

各公民館で活動されている団体へ依頼（7公民館長あてに順番に依頼）

⑤中学生・高校生傍聴

- ・学校への調整は議会が直接するのか？教育委員会から行うのか？
（希望者を募るのか？）（日程や時間帯）（定例会個人質問の時か）
教育委員会が調整、12月議会、7中学から2～3名、個人質問の時に調整、
授業の一環として学校の授業時間帯に来る（教員の負担軽減の為）

<所見>

彦根市議会では、視察対応プロジェクトチームが行政視察の対応をしております。

市民アンケート調査の結果を受けて、議会の動きが市民に分からない事が改めて確認できた。

議会改革が自己満足に終わらないように、議会基本条例を見直し情報発信が市民との対話に更に力を入れて行く事が分かりました。

議会報告会や意見交換会のあり方を見直し変更を行い、試行錯誤を繰り返し改善を図っている。

子ども議会については、市・教育委員会と議会が共同して実施していて上手く機能している。

本議会も、子ども議会の方法を再検討して実施可能な形態にする必要がある。

子ども議会は、子どもだけでなく保護者や教職員なども議会に関心を持ってもらうツールとして最適であると感じました。

中学生・高校生の議会傍聴は、選挙年齢が18歳に引き下げられた事もあり若年齢層の政治や選挙に関心を持ってもらうきっかけとなると思いました。

彦根市議会では、議会改革の取り組みについては、毎年検証を繰り返し変更や改善を行なっている、改革に日々取り組んでいる姿勢に感心するとともに参考になりました。

議会運営委員会 行政視察

令和1年11月21日(木)

市民クラブ 丸谷正八郎

<加賀市議会>「議会改革の取り組み」について (議会事務局職員からの説明であった)

(質疑応答は議会活性化特別委員会の議員が行った)

「議会改革度調査2018」全国5位

平成23年4月1日 議会基本条例を施行

- ・開かれた議会
- ・市民が参加する議会
- ・政策提案する議会
- ・監視する議会
- ・審議する議会

以上のように、議会が目指すべき姿を掲げ、具体的なとりくみを明文化した。

(開かれた議会へ)

平成23年～ 政務調査費の全面公開

平成23年～ 小学生の議会傍聴

平成27年～ フェイスブック開始

平成27年～ 本会議等インターネットライブ中継

議会のホームページを新しく・見やすく改善を図った。

(市民が参加する議会へ)

・日曜議会を開催 H23年12月11日(日) 初日傍聴者20名～閉会時は2～3人に減少した、以降の日曜議会は、H24年6月10日(日) 33名、H27年6月13日(土) 29名、14日(日) 14名 想像していたより傍聴者が増えなかった日曜議会は効果が無い。

H23年～ 議会報告会(意見交換会も合わせて実施)、H23・27・28年 女性議会、

H24年 小学生議会、H26年 中学生議会、H29年～ 高校生議会、H29年～ 高校生と意見交換会、

H28～30年度 議会だよりモニター員制度

H30年度～ 議会おでかけ教室(小・中学校)、H31年度～ 議会モニター員制度

(政策提案する議会へ)

・執行部への提言

H29年7月 防犯カメラの設置に関する提言書 (総務委員会)

H30年9月 柴山瀉遊歩道整備に関する提言書 (柴山瀉活用特別委員会)

R元年5月 一次産業の振興に関する提言書 (産業建設委員会)

(その他の取り組み)

・ H27年10月 タブレット端末の導入 (WiFi環境の整備を実施している)

WiFiルーター手数料6,480円 (3,240円×2台)

ルーター月額使用料4,732円 (導入時2台、現在1台) とあるが詳細は後日連絡が入る。

・ H27年11月 議会交際費内訳公開 (HP) 議会内申し合わせ事項公開 (HP)

・ H27年度分～ PPDCAサイクル導入

・ H31年度～ 傍聴席に大型ディスプレイ設置、長期欠席議員の報酬減額条例 (4月施行)

・ H25年度とH28年度に市民アンケート調査を実施

(議会改革の進捗状況をH25年度と28年度を比較して更なる改善を図っている)

<所 見>

議会改革の達成度の判断は難しい、市民と議会との距離が近付いたか、議会の仕事(働き)が理解して頂いたか等、市民アンケート調査(市民1,500人を無作為選出・無記名)を実施して進捗状況を確認しているが、中々成果が現れないようである。

議会改革に決めてはないが、粘り強く市民と向き合い様々な取り組みを実施して行く事が重要であると感じました。

議会運営委員会 行政視察 所感

池辺貢三

・彦根市議会

彦根市議会では、議会改革の取り組みとして「議場解放促進委員会」「広報委員会」「公聴委員会」を立ち上げ、広報公聴の3組織として活動しているとの事でした。

【市民アンケート】

議会基本条例の制定にあたり、市民アンケートを実施した際に多くの厳しい意見を受けて、改革に至った彦根市議会の取り組みについては、議会報告会や議場解放事業、議場コンサートなど様々な取り組みを行っているとの事でした。

【議会報告会】については、その都度の検証を重ねて実施し、参加減少傾向の現状を踏まえて、新たにワークショップ形式での開催に変更をしての意見交換を中心に実施しているとの事でした。

また、対象を各種団体との意見交換を実施することにより、市への政策提言につなげているとの事でした。

しかし、検証を行う中で、各種団体との意見交換が続き、一般市民の声を聞けていないことが課題となったため、今では議会報告会の名称を「カタリバ」に変更し、PRのために名刺サイズのチラシを作成するなど、様々な周知に取り組んでいるとの事でした。

本市においても、意見交換会の実施について、アウトリーチ型の意見交換など、新たな手法を試みる必要があると感じました。

【議場解放】については、子ども議会や、議場コンサート、中学生・高校生の議会傍聴に取り組んでいるとの事。

なかでも、本市でも実施している議場コンサートについては、6、12月定例会の開会日13:00～13:30で実施しており、議場コンサートへの来場者は一定数確保するものの、議会傍聴については変化が見られないとの事であった。本市においても実施予定の議場コンサートに合わせて、議会への関心を頂くための取り組みをする必要があると感じました。

また、【子ども議会】【中学生・高校生の議会傍聴】については教育委員会の積極的な協力が必要である事から、協力要請に何う必要があると感じました。

・加賀市議会

始めに加賀市議会議長の歓迎の挨拶の中で「アンケートや議会報告会等、これらを実施してどれだけ市民と近づけているのか?!手ごたえがない中で進めている」と言われていましたが、その加賀市においても様々な取り組みを紹介頂きました。

【議会だよりのモニター員】については、「読みやすく、わかりやすく」を最前提に、フルカラー化や増ページなど、発行紙の充実に取り組むとともに、特集記事を組むなど、様々な工夫が施された議会だよりとなっていました。

また、【日曜議会の開催】については、平成24年、平成27年と実施をしたが傍聴者の参加数が伸びなかったため、今では要項を削除しているとの事でありました。

さらに【議会モニター】については、推薦により任命し議会運営全般についてアンケートで意見を聴取しているということでした。

【議会報告会】については、報告会終了後、市民からの意見・提案は各所管委員会に振り分け、調査・検討を行い、各所管の委員会で回答の集約をし公表しているとの事でした。

【市内小・中学生の議会傍聴】については、保護者の議会への関心を得るための取り組みにもつながっているとの事で、本市においても積極的に教育委員会へ働きかけることが必要であると感じました。

さらに【子ども議会】や【高校生との意見交換会の開催】、【議会お出かけ教室の開催】など、様々な取り組みを経て、平成25年度、平成28年度に市民を対象に実施された議会アンケートでは、関心・活動評価について確実に成果が現れているように感じさせて頂きました。

また、余談になりますが、『東京2023加賀「加賀市新幹線対策室」』のプレゼン動画を冒頭に紹介頂いたのですが、これがまた素晴らしい作品で、本市議会においても議会動画のヒントにならないかと感じた動画でありました。

※まとめ

視察に伺った両市において、形は違えど広報公聴委員会等を立ち上げ、精力的に活動の展開が図られていました。

本市においても今期より立ち上がった広報公聴委員会の精力的な活動による展開こそが、市民に開かれた議会へとさらにつながっていく事ができると確信した視察となりました。

令和元年 11 月 20 日～21 日に行われました議会運営委員会行政視察の所感を下記の通りご報告致します。

公明党 大塚 英一

記

令和元年 11 月 20 日、21 日の 2 日間にわたる議会運営委員会行政視察の所感をご報告します。まず初日の 20 日は滋賀県彦根市へ行かせて頂き、彦根市議会の議会改革の取り組みをご教示いただいた。特に印象に残った二つの市議会にて共通している点を端的に申し述べて所感としたい。

まずこの二つの市議会に共通しているのは、最初に市民に対して議会に関する市民アンケートを行っている点である。組織の改革を行うのであるから、どのように思われているのかまず現状をしっかりと把握することからスタートするということは当然といえば当然であるがまずはその部分をしっかりと行った点は共通している点であった。そして両市議会とも市民からはかなり厳しい意見を賜ったとおっしゃっておられたが、その意見をしっかりと受け止め前向きに一步一步改革を進めてこられたことに敬意を表したいと思う。そして次に共通していた点は両市議会とも子ども議会の開催や中高生に対する取り組みが充実している点である。これは市議会だけの動きではなかなか進まないことであり両市とも教育部局がこの取り組みに前向きに取り組んでおり、いい意味でのあたり前、恒例行事化されていることに感心し、本市とはかなり状況が異なっているなど感じました。特に小学生などの子どもに対するアプローチは必然的にその子どもたちの保護者も関心を示さざるを得なくなり、議会への関心や傍聴へと誘導していくひとつのきっかけとなるのではないかと感じました。そしてもうひとつ共通していた点は、両市とも議会だよりの内容が充実している点である。特に議会定例会での各議員の一般質問の内容の紹介では、細かく文字数が多い書体から、ある程度文字を大きくし、質問の内容もポイントを絞ったものとして空きスペースを作り、現場の画像などをふんだんに盛り込んでより市民に対してわかりやすい誌面作りをこころがけている点である。こうした点は本市議会でも参考にすべきではないかと思う。両市議会とも本市議会よりもはるか先の議会改革を行っているなど改めて説明を受けて感じたところである。本市議会においてもできるところから確実に議会改革を行ってきており、議会改革度ランキングも急上昇しているところではあるが、今後は市民への議会報告会、子ども議会など難易度が高い取り組みを行っていかなければならないと感じた。こうした議会改革の取り組みでは従前のやり方などに固執する議員に対するフォローが必要であると思う。こうした点から議員間の共通認識や方向性をある程度一致させておくことも大変重要であると思う。

以上